

## 春どりホウレンソウの収穫調査を実施

丹後地域の開発農地では、業務用野菜の契約栽培が進められています。当地では、これまでアブラナ科野菜を中心に作付けられてきたため、土壌伝染性病害等が懸念されています。また、4～6月に出荷できる品目が少ないことから、生産者からアブラナ科以外で4～6月に出荷できる品目が求められています。

そこで、丹後農業研究所では、5～6月に収穫する業務用の春どりホウレンソウの作型を研究しています。ホウレンソウは日が長くなると抽台<sup>ちゅうだい</sup>※する性質を持つため、5～6月は栽培が難しいとされています。今回、品種や播種<sup>は</sup>時期、保温による生育促進効果等を検討したところ、5月中旬に収穫、出荷可能となったため、収穫量と抽台、病害の有無等の調査を行いました。

今後は、施肥方法等も検討し、生産者へ提案できる栽培方法を明らかにすることを目指します。

※ 抽台<sup>ちゅうだい</sup>: 植物が開花するために茎を伸ばす作用。

葉菜類では、抽台すると葉が硬くなり、食用に向かないため、商品価値がなくなります。



ホウレンソウの収穫調査

農林センター(丹後農業研究所)